

令和3年度やさしい未来都市会議要旨

1 趣 旨

社会情勢の変化や新たな政策課題に対応するため、本市の方向性や主要施策の推進について、外部の有識者と意見交換し、識見を深めることを目的として、以下のとおり会議を実施した。

2 日 時

令和3年10月13日（水） 10時00分～12時00分

3 出席者

主宰（市長）

委員10名（委員名簿のとおり）

4 内 容

（1）意見交換テーマ

都市成長戦略（若者・女性から選ばれるまち）について

（2）委員意見抜粋

若者から選ばれるまちについて

（就職）

- ・学生が地域に定着するには魅力を感じる企業が必要である。
- ・学生は魅力を感じる情報を企業から提供してほしいと思っている。
- ・東広島市内企業のPRは、関東・関西出身の学生には届いていない。
- ・また、個々の市内企業では自社の魅力を十分PRする余力がない企業が多い。
- ・そのため、産官学が一体となって、学生と企業をつなげる取組みが必要である。

（イノベーション・若者活躍）

- ・Hi-Bizで、札幌市のSCSのように学生のうちから気軽に相談でき、創業していけるような支援をすることで、学生起業家が増えると思う。
- ・従来の管理型教育ではなく、失敗する経験をさせるなど、チャレンジしたい気持ちを育む教育を行うことがイノベーションを起こす人材の育成に繋がる。

（まちの魅力づくり）

- ・産業の多様化には、まちの賑わい創出が必要で、それがサービス業などの雇用機会の拡大につながる。
- ・魅力を最大限伝えるには、市からの情報発信において、プラス思考の情報を付加して発信することが重要である。

（人材育成）

- ・学生が生活の中や文化的な交流の中で活躍できる環境づくりが重要である。
- ・中高生のうちから、地域の人と一緒に活動し、地元への理解が進むことで、就学・就職等で一時的に転出して将来帰ってくる人材が育成されると思う。

女性から選ばれるまちについて

- ・子育て環境や働ける環境が充実するとよい。
- ・子育てする場所として、保育施設とアクセスしやすい病院が充実したまちを選ぶ傾向がある。
- ・広島県は医療費支援が弱いという声を聞く。医療費の助成を拡充することは、まちを選ぶ際のインセンティブに繋がると思う。
- ・共働きを希望する子育て世代は、女性方の親の近くに住む場所を探す傾向がある。
- ・三世同居・近居の助成制度は、東広島市へ帰ってくるきっかけとして有効である。ただし、引っ越しの助成程度では、インセンティブにはならないようだ。
- ・親との同居はハードルが高く、近居が好まれる傾向がある。

交通について

- ・学生が多様化し、車を持たない学生が増えてきた。
- ・このため、生活の中で最低限の移動ができるような自由度の高い移動手段（例えば、乗り捨て自転車やバイク）があると良い。
- ・中心地と比べると、周辺地の公共交通は不便である。
- ・広島市、呉市へアクセスしやすい（交通の便が良い）ことが、若者たちに伝わっておらず、魅力を伝える施策が不足している。

その他都市成長戦略について

- ・地方都市として発展を続けるためには、海外の人にも魅力を感じてもらうことが必要である。
- ・海外へ進出している国内企業が人件費の高騰等で海外から撤退する傾向にある。このニーズを掴む“ものづくり”ができる支援体制が必要である。
- ・中山間地域の産業の中心は農業であり、担い手を増やし、生産基盤を強化することが地域の活力を生むためには必要である。
- ・都市の発展には、中心市街地の成長だけでなく、中山間地域もまた充実することが必要である。
- ・事業者にとって専門家に無料で相談に乗ってもらえる場所があることは重要であり、Hi-Bizの継続・拡充が必要である。
- ・放課後児童クラブで、大学生に来てもらって実験をしたり、一緒に活動したりすることは児童生徒に良い学びの場となると思う。
- ・近畿大学でも広島大学のTown&Gownのように市と連携した取組みをしていきたいと考えている。